

# 山口県徳地方言のアクセント

## —名詞のアクセント体系と複合名詞のアクセント規則について—

The Accent of Nouns in the Tokuji Yamaguchi Prefecture Dialect of Japanese  
—The Accent System of Nouns and the Accent Rules of Compound Nouns—

池田史子  
Fumiko IKEDA

### 0. はじめに

山口県の中央部に位置する旧山口県佐波郡徳地町(注1)は、平成17年10月1日をもって旧山口市・旧小郡町・旧阿知須町・旧秋穂町と合併し、新しい「山口市」が誕生した。本稿は、その合併直前の平成17年9月に旧徳地町を訪ね、アクセント調査を行ったものである。

調査にご協力いただいたのは、いずれも旧徳地町内でお生まれになり、旧徳地町内で生活をなさってきた男性2名・女性2名である。(注2)

本稿では、まず初めに1～3拍の名詞アクセント体系について述べ、その後にその名詞が組み合わさって複合名詞が形成される際のアクセント規則について考察する。旧徳地町の方言アクセントについては、複合名詞を除いては今までにもいくつか報告がなされているので(注3)、その結果との比較も行う。

調査語彙の選定にあたっては、金田一・和田「国語アクセント類別語彙表」等を参考にしたが、複合名詞のアクセント規則の考察には、その前部要素・後部要素、それぞれの単独でのアクセント型を知る必要があるため、意味のある複合語を作成した後にその前部要素・後部要素も調査語彙に加えることとなった。

アクセントの記述方法は、次のように行う。

高音拍部 H (または, ● / 助詞「が」は▶)

低音拍部 L (または, ○ / 助詞「が」は▷)

複合語の前部要素 X

複合語の後部要素 Y

複合語 Z (Z = X + Yとなる)

アクセントの下がり目が何拍目にあるかについては、①②③④で表す。①は、下がり目のない平板式であることを表している。拍を後ろから数える場合は、-で表記する。例えば、-③, -②, -①, ①となる。

### 1. 名詞のアクセント体系

はじめに、1～3拍の名詞アクセントの現状について概観する。

#### 1. 1 1拍名詞

1拍名詞に助詞「が」を接続した語彙のアクセントは、【表1】のように発音される。

【表1】徳地町堀, 中村哲子さんの1拍名詞アクセント  
昭和6年(1931)1月生まれ(平成17年9月の調査時に満74歳)

	○▶	●▷
第1類	枝, 蚊, 子, 血, 戸, 帆, 身	実
第2類	名, 葉, 日, 藻, 矢	
第3類		絵, 尾, 木, 粉, 酢, 田, 手, 菜, 荷, 根, 野, 火, 穂, 目, 湯

類別語彙の第1・2類は○▶と発音され, 第3類は, ●▷と発音される。アクセントの型の種類は2種類で, 第1・2類/第3類と分化している。

### 1. 2 2拍名詞

2拍名詞に助詞「が」を接続した語彙のアクセントは, 【表2】のように発音される。

【表2】中村哲子さんの2拍名詞アクセント

	○●▶	○●▷	●○▷
第1類	灰汁, 姉, 飴, 蟻, 烏賊, 牛, 梅, 魚, 枝, 海老, 柿, 瘡, 風, 蟹, 金, 鐘, 壁, 顔, 釜, 粥, 雉子, 疵, 君, 桐, 釘, 口, 国, 頸, 鉄, 暮, 腰, 薦, 此, 酒, 笹, 里, 鯖, 皿, 品, 芝, 皺, 鋤, 杉, 鈴, 裾, 末, 底, 袖, 其, 鷹, 滝, 竹, 竜, 塵, 筒, 壺, 爪, 釣り, 床, 虎, 鳥, 西, 庭, 布, 軒, 箱, 端, 蓮, 蜂, 鼻, 羽根, 灰, 縄, 袴, 膝, 膝, 菱, 暇, 紐, 鱒, 鱈, 蓋, 札, 藤, 筆, 笛, 臍, 星, 的, 舞, 右, 道, 水, 峰, 虫, 糲, 桃, 森, 宵, 嫁, 丘, 甥, 誰, 何処, 棟, 籠, 仮名, 棟, 籠, 仮名, 甲斐, 株, 蚊帳, 胡麻, 城, 艶, 藪, 槍, 床, 百合, 横	籠手, 先, 蓼, 縁, 宮, 友, 真似	駒, 鷲, 鮫
第2類		痣, 石, 岩, 歌, 音, 垣, 方, 型, 川, 紙, 北, 串, 鞍, 下, 旅, 度, 塚, 次, 蔦, 襖, 弦, 橋, 旗, 機, 肘, 昼, 冬, 町, 胸, 村, 八重, 雪, 業, 栗毬, 門, 杭, 頃, 蟬, 人, 殻, 為, 夏, 余所	梨, 故, 彼, 牙, 妻, 姫, 文, 虹
第3類 麻		垢, 足, 明日, 網, 綾, 泡, 池, 犬, 家, 芋, 色, 蛆, 腕, 畝, 馬, 裏, 鬼, 親, 鍵, 勝ち, 神, 髪, 瓶, 菊, 岸, 際, 肝, 茎, 草, 櫛, 靴, 熊, 組, 倉, 栗, 苔, 事, 米, 坂, 錆び, 竿, 舌, 塩, 潮, 鳥, 標, 霜, 尻, 鯨, 脛, 炭, 墨, 芹, 丈, 谷, 柄, 月, 土, 綱, 角, 面, 弟子, 時, 毒, 年, 波, 縄, 糠, 蚤, 墓, 萩, 刷毛, 鉢, 恥, 撥, 花, 浜, 腹, 輝, 房, 節, 縁, 幕, 杵, 股, 鞠, 耳, 室, 物, 樹脂, 山, 闇, 指, 弓, 夢, 脇, 腋, 粹, 綿, 孔, 皮, 糞, 桑, 鯛, 玉, 後, 豆, 膿, 堀, 孫, 店	熨斗, 海苔, 晴れ, 貝, 雲, 太刀, 塔, 姪, 鱒, 恋

第4類	板, 糸, 下駄, 他	鞘, 谷, 桁, 父, 鏝	跡, 粟, 息, 市, 何時, 稻, 白, 海, 瓜, 權, 笠, 糟, 数, 肩, 角, 鎌, 上, 絹, 杵, 錐, 管, 屑, 今朝, 今日, 汁, 筋, 隅, 銭, 側, 空, 種, 杖, 中, 何, 鑿, 箸, 肌, 針, 舟, 紅, 篋, 松, 味噌, 蓑, 麦, 藁, 我, 槌, 尼, 帯, 外, 乳, 粒, 主, 宿
第5類	蛭, 棚	股, 蛇	秋, 汗, 蛇, 雨, 鮎, 藍, 蔭, 黍, 蜘蛛, 琴, 鯉, 声, 猿, 足袋, 常, 露, 鶴, 鍋, 鱧, 春, 鮒, 窓, 前, 眉, 繭, 聲, 桶, 青, 赤, 朝, 兄, 牡蠣, 黒, 白, 鮭, 井戸

類別語彙の第1類は○●▶, 第2・3類は○●▷, 第4・5類は●○▷と発音される。アクセントの型の種類は3種類で, 第1類/第2・3類/第4・5類と分化している。

### 1. 3 3拍名詞

3拍名詞に助詞「が」を接続した語彙のアクセントは, 【表3】のように発音される。

【表3】中村哲子さんの3拍名詞アクセント

	○●●▶	○●●▷	○●○▷	●○○▷
第2類	間	小豆, 毛抜き, 釣瓶, 蜥蜴, 二つ		夕
第4類		頭, 軍, 恨み, 扇, 男, 思い, 表, 女, 鏡, 敵, 刀, 言葉, 暦, 境	鶉, 面	
第3類		小麦	黄金, 栄螺, 力, 二十歳, 岬	
第5類		鱧	朝日, 五つ, 命, 胡瓜, 心, 姿, 涙, 錦, 火箸, 眼	
第7類	苺, 葉, 盥,			後ろ, 蚕, 兜, 鯨, 病, 便り
第6類	孰, 兎, 鰻, 狐, 雀, 背中, 鼠, 誠, 操, 蓬, 雲雀			鳥, 高さ
第1類	筏, 鯛, 己, 飾り, 霞, 形, 着物, 轡, 煙, 氷, 衣, 魚, 鼻, 印, 机, 隣, 初め, 鼻血, 額, 羊, 都, 柳, 錨	小山, 庇	仔牛	

第2・4類は○●●▷と, 第3・5類は○●○▷と, 第6・1類は○●●▶と発音される。第7類はその多くが●○○▷と発音されているが, ○●●▶型もあり揺れている。それぞれの所属語彙数に差が少なく, 音声的偏りは見受けられない。型の種類は4種類で, 類の統合の仕方としては第2・4類/第3・5類/第7類/第6・1類と分化しているといえる。

これは, 今回の調査よりもおよそ30歳年齢が上の方を対象に調査された昭和35年(1960)の調査でも, 調査語彙に多少差があるものの, ほぼ同じような結果がでている。(注3) 次の【表4】は, その調査結果の中から徳地町に相当する部分を抜き出してまとめたものである。両者を比較してもこの30年間に徳地町においては大きなアクセント変化はなかったと言えよう。

【表4】昭和35年(1960)3~5月に、当時60歳前後の方の3拍名詞アクセント(広戸惇調査)

	○●●▶	○●●▷	○●○▷	●○○▷
第2類	間	小豆, 毛抜き, 釣瓶, 蜥蜴, 二人, 百足, 娘	榎,	鬘,
第4類		戦, 融, 限り, 包み, 鯨, 願い, 残り, 林, 払い, 雇い, 蕨		
第3類	二重	小麦, 仏,	木通, 鮑, 黄金, 力, 岬	拳,
第5類	胡座, 油, 柱, 枕		朝日, 従兄弟, 命, 鶉, 神楽, 鱒, 胡瓜, 心, 姿, 卵, 涙, 単衣, 火箸, 箒,	
第7類	苺, 兜, 辛子, 鉛, 鼠, 緑,		一人, 緑,	後ろ, 鯨, 病,
第6類	兎, 鰻, 蛙, 烏, 菫, 燕, 蜻蛉, 長さ, 鼠, 雲雀, 蚯蚓, 蓬		狸, 堤,	烏, 李, 長さ,
第1類	昔			

また、旧徳地町の西に接する山口市宮野地区での2年前の調査でも、徳地町と同じ結果であった。

(注4)

参考までに、東京方言の3拍名詞アクセントをまとめると次のような状況になっている。【表5】には、アクセント辞典に掲載されている3拍名詞のアクセントをまとめたものである。同一語彙に2つ以上のアクセント型が掲載されている場合は、2番目以降をカッコに入れて表に加えた。(注5)

【表5】東京方言の3拍名詞アクセント

	○●●▶	○●●▷	○●○▷	●○○▷
第2類	間, 毛抜き, 釣瓶, 蜥蜴,	小豆, (毛抜き), 二つ, 二人, 夕		
第4類	(軍, 鶉, (扇), (曆), 東, (仏)	頭, 軍, 恨み, 扇, 男, 表, 女, 鏡, 敵, 刀, 言葉, 曆, 宝, 剣, 袴, 鉄, (東), 光, 袋, 仏, 蓆	(頭), 思い, (刀), 境, (袴), (鉄)	
第3類	黄金, (小麦), 岬	力	小麦,	(黄金), 栄螺, 二十歳,
第5類		(心)	五つ, 心,	朝日, 命, 鱒, 胡瓜, 姿, 涙, 錦, 火箸, 眼
第7類	苺, 後ろ, 鯨, 菜, 盥,			蚕, 兜, 便り, 病
第6類	孰, 兎, 鰻, 狐, 雀, 背中, 鼠, 誠, 操, 蓬, 雲雀			鱒, 烏, 高さ
第1類	筏, 錨, 鯉, 己, 飾り, 霞, 形, 着物, 轡, 煙, 仔牛, 氷, 小山, 衣, 魚, 舅, 印, 机, 隣, 初め, 鼻血, 庇, 額, 羊, 都, 柳			

現状では、東京方言の3拍名詞アクセントは○●○▷が少なくなっているために、両者を対照してみると型の種類は山口方言よりも1種類少ない○●●▷, ●○○▷, ○●●▶の3種類であるが、第

7類に関しては山口方言と同じように●○○▷と○●●▶の間で揺れているようである。

なお、今のところ徳地町の老年層の3拍名詞第3・5類アクセントに東京方言の影響は認められない。徳地町では第3・5類のアクセントは○●○○▷であり、東京方言の第3・5類と同じように●○○▷と発音される語は1語もなかった。これは隣接する山口市宮野地区の老年層でも同じである。ただし、隣の旧山口市の若年層の3拍名詞第5類のアクセントに、●○○▷型の発音が急速な広がりを見せてきているという調査結果もあるので(注6)、今後旧徳地町においても、もう少し若い世代の調査も併せて行う必要があるだろう。

## 2. 複合名詞のアクセント規則

では次に、これらの名詞が組み合わさって作られる複合名詞のアクセントは、どのような規則によって作られるのであろうか。後部要素となる名詞の拍数別にまとめてみることにする。

### 2.1 Y=3の場合, Z=-③

後部要素Yが3拍の場合、作られる複合名詞Zのアクセント(単独形)は、LHLL又はLHLLLとなり、必ず後ろから3拍目に下がり目が来る型となる。この場合の後部要素YはLHHでもLHLでもHLLでもよい。また、前部要素Xは1拍の場合はLでもHでもよく、2拍の場合はLHでもHLでもよい。Xの拍数もZの拍数も、複合名詞Zの型には関与しないし、Xの型もYの型も、複合名詞Zの型には関与しない。Yが3拍の場合の複合名詞Zは、必ず-③型となるのである。【表6】は、後部要素が3拍の場合の複合名詞のアクセント型をまとめたものであるが、このなかで例外となるのは、「子宝・気心・北枕」の3語であった。この3語はそれぞれ①型、-②型、-①型である。

【表6】Y=3の場合

読み	漢字	X+Y	Xが+Yが	Z	Zが	Zの下がり目
よかぐら	夜神楽	H・HLL	HL・HL LLL	LHLL	LHLL L L	-③
きいちご	木苺	H・LHH	HL・LHHH	LHLL	LHLL L L	-③
めぐすり	目薬	H・LHH	HL・LHHH	LHLL	LHLL L L	-③
めじるし	目印	H・LHH	HL・LHHH	LHLL	LHLL L L	-③
ゆけむり	湯煙	H・LHH	HL・LHHH	LHLL	LHLL L L	-③
じあまり	字余り	H・LHH	HL・LHH L	LHLL	LHLL L L	-③
てかがみ	手鏡	H・LHH	HL・LHH L	LHLL	LHLL L L	-③
あまがえる	雨蛙	HL・LHH	HLL・LHHH	LHHLL	LHHLL L L	-③
かたぐるま	肩車	HL・LHH	HLL・LHHH	LHHLL	LHHLL L L	-③
むぎこうじ	麦麴	HL・LHH	HLL・LHHH	LHHLL	LHHLL L L	-③
こがたな	小刀	L・LHH	LH・LHH L	LHLL	LHLL L L	-③
こづつみ	小包	L・LHH	LH・LHH L	LHLL	LHLL L L	-③
こむすめ	小娘	L・LHH	LH・LHH L	LHLL	LHLL L L	-③
やおもて	矢面	L・LHH	LH・LHH L	LHLL	LHLL L L	-③
こひつじ	子羊	L・LHH	LH・LHHH	LHLL	LHLL L L	-③
はざぐら	葉桜	L・LHH	LH・LHHH	LHLL	LHLL L L	-③
けじらみ	毛虱	L・LHH	LH・LHHH	LHLL	LHLL L L	-③
こだから	子宝	L・LHH	LH・LHHH	LHHH	LHHHH	①
きごころ	気心	L・LHL	LH・LHL L	LHHL	LHHLL	-②

こだぬき	子狸	L・LHL	LH・LHLL	LHLL	LHLLL	-③
かざぐるま	風車	LH・LHH	LHH・LHHH	LHLLL	LHLLLL	-③
ごまあぶら	胡麻油	LH・LHH	LHH・LHHH	LHLLL	LHLLLL	-③
にくうどん	肉饅頭	LH・LHH	LHH・LHHH	LHLLL	LHLLLL	-③
ごまどうふ	胡麻豆腐	LH・LHH	LHH・LHHL	LHLLL	LHLLLL	-③
きたまくら	北枕	LH・LHH	LHL・LHHH	LHHHH	LHHHHL	-①
やえざくら	八重桜	LH・LHH	LHL・LHHH	LHLLL	LHLLLL	-③
ゆきやなぎ	雪柳	LH・LHH	LHL・LHHH	LHLLL	LHLLLL	-③
やまあらし	山嵐	LH・LHH	LHL・LHHH	LHLLL	LHLLLL	-③
やまざくら	山桜	LH・LHH	LHL・LHHH	LHLLL	LHLLLL	-③
こめこうじ	米麴	LH・LHH	LHL・LHHH	LHLLL	LHLLLL	-③
いしあたま	石頭	LH・LHH	LHL・LHHL	LHLLL	LHLLLL	-③

## 2. 2 Y=2の場合, Z=-②

後部要素Yが2拍の場合, 作られる複合名詞Zのアクセントは, LHL, LHLL, LHHHLとなり, 後ろから2拍目に下がり目が来る型が基本である。特に後部要素YがHL (●○▷) またはLH (○●▶) の場合は例外が少なく, -②型になることが多い。【表7】【表8】参照。この中で, 「雨傘・鱗雲・朝顔・柳腰・轡虫・刀鍛冶」の6語は例外としてもうひとつアクセント核を前へ進めた-③型になっている。そして, 「真水・狛犬・鶏」は①型となっている。

ただし, 後部要素YがY=LH (○●▷) の場合, その作られる複合名詞は, Z=-③またはZ=①となり, この「Y=2の場合, Z=-②」の規則には当てはまらない。【表9】参照。ほとんどが, もうひとつアクセント核を前へ進めた-③型, または①型である。-①型の「間際・小山・靴下・米糠・耳垢・足音」は, 例外の例外である。

【表7】Y=2の場合のうち, Y=HL (●○▷) の時

読み	漢字	X+Y	Xが+Yが	Z	Zが	Zの下がり目
せなか	背中	H・HL	HL・HLL	LHH	LHHH	①
ひばし	火箸	H・HL	HL・HLL	LHL	LHLL	-②
あまがさ	雨傘	HL・HL	HLL・HLL	LHLL	LHLLL	-③
はるさめ	春雨	HL・HL	HLL・HLL	LHHH	LHHHH	①
なまえ	名前	L・HL	LH・HLL	LHH	LHHH	①
みずうみ	湖	LH・HL	LHH・HLL	LHHL	LHLLL	-②
きりさめ	霧雨	LH・HL	LHH・HLL	LHHH	LHHHH	①
はないき	鼻息	LH・HL	LHH・HLL	LHHL	LHLLL	-②
くちべに	口紅	LH・HL	LHH・HLL	LHHL	LHLLL	-②
だんごじる	団子汁	LHH・HL	LHHL・HLL	LHHHL	LHHHLL	-②
あたまかず	頭数	LHH・HL	LHHL・HLL	LHHHL	LHHHLL	-②
かんなくず	鉋屑	LHH・HL	LHHL・HLL	LHHHL	LHHHLL	-②
たまねぎ	玉葱	LH・HL	LHL・HLL	LHHL	LHLLL	-②
うろこごも	鱗雲	LHL・HL	LHLL・HLL	LHLLL	LHLLLL	-③
ちからこぶ	力瘤	LHL・HL	LHLL・HLL	LHHHL	LHHHLL	-②

【表8】Y=2の場合のうち、Y=LH (○●▶) の時

読み	漢字	X+Y	Xが+Yが	Z	Zが	Zの下がり目
まみず	真水	H・LH	HL・LHH	LHH	LHHH	①
こまいぬ	狛犬	HL・LH	HLL・LHH	LHHH	LHHHH	①
あきかぜ	秋風	HL・LH	HLL・LHH	LHHL	LHHLL	-②
あさがお	朝顔	HL・LH	HLL・LHH	LHLL	LHLLL	-③
くろうお	黒魚	HL・LH	HLL・LHH	LHHL	LHHLL	-②
こうし	仔牛	L・LH	LH・LHH	LHL	LHLL	-②
ごみばこ	ゴミ箱	LH・LH	LHH・LHH	LHHL	LHHLL	-②
にわとり	鶏	LH・LH	LHH・LHH	LHHH	LHHHH	①
はいざら	灰皿	LH・LH	LHH・LHH	LHHL	LHHLL	-②
ふでばこ	筆箱	LH・LH	LHH・LHH	LHHL	LHHLL	-②
くすりばこ	薬箱	LHH・LH	LHHH・LHH	LHHHL	LHHHLL	-②
みやこどり	都鳥	LHH・LH	LHHH・LHH	LHHHL	LHHHLL	-②
やなぎごし	柳腰	LHH・LH	LHHH・LHH	LHHLL	LHHLLL	-③
くつわむし	轡虫	LHH・LH	LHHH・LHH	LHHLL	LHHLLL	-③
たきぎのう	薪能	LHH・LH	LHHH・LHH	LHHHL	LHHHLL	-②
はだかがね	裸金	LHH・LH	LHHH・LHH	LHHHL	LHHHLL	-②
ひがしかぜ	東風	LHH・LH	LHHL・LHH	LHHHL	LHHHLL	-②
みなみかぜ	南風	LHH・LH	LHHL・LHH	LHHHL	LHHHLL	-②
かたなかじ	刀鍛冶	LHH・LH	LHHL・LHH	LHHLL	LHHLLL	-③
あずきがゆ	小豆粥	LHH・LH	LHHL・LHH	LHHHL	LHHHLL	-②
はなよめ	花嫁	LH・LH	LHL・LHH	LHHL	LHHLL	-②
やまどり	山鳥	LH・LH	LHL・LHH	LHHL	LHHLL	-②
こうし	仔牛	L・LH	LH・LHH	LHL	LHLL	-②

【表9】Y=2の場合のうち、Y=LH (○●▷) の時

読み	漢字	X+Y	Xが+Yが	Z	Zが	Zの下がり目
きいろ	黄色	H・LH	HL・LHL	LHH	LHHH	①
すあし	素足	H・LH	HL・LHL	LHH	LHHH	①
まぎわ	間際	H・LH	HL・LHL	LHH	LHHL	-①
なかゆび	中指	HL・LH	HLL・LHL	LHLL	LHLLL	-③
こなゆき	粉雪	HL・LH	HLL・LHL	LHLL	LHLLL	-③
なかゆび	中指	HL・LH	HLL・LHL	LHLL	LHLLL	-③
こなゆき	粉雪	HL・LH	HLL・LHL	LHLL	LHLLL	-③
こやま	小山	L・LH	LH・LHL	LHH	LHHL	-①
こども	子供	L・LH	LH・LHL	LHH	LHHH	①
ははおや	母親	LH・LH	LHH・LHL	LHHH	LHHHH	①
もちごめ	餅米	LH・LH	LHH・LHL	LHHH	LHHHH	①
さといも	里芋	LH・LH	LHH・LHL	LHHH	LHHHH	①
みずいろ	水色	LH・LH	LHH・LHL	LHHH	LHHHH	①
みずくさ	水草	LH・LH	LHH・LHL	LHHH	LHHHH	①

さくらだい	桜鯛	LHH・LH	LHHH・LHL	LHHHL	LHHHLL	-②
かつおぶし	鰹節	LHH・LH	LHHL・LHL	LHHHH	LHHHHH	①
おもてうら	表裏	LHH・LH	LHHL・LHL	LHLLL	LHLLLL	-③
くつした	靴下	LH・LH	LHL・LHL	LHHH	LHHHL	-①
はかいし	墓石	LH・LH	LHL・LHL	LHHH	LHHHH	①
ちちおや	父親	LH・LH	LHL・LHL	LHHH	LHHHH	①
いぬごや	犬小屋	LH・LH	LHL・LHL	LHHH	LHHHH	①
おきなわ	沖縄	LH・LH	LHL・LHL	LHLL	LHLLL	-③
おやゆび	親指	LH・LH	LHL・LHL	LHLL	LHLLL	-③
こめぬか	米糠	LH・LH	LHL・LHL	LHHH	LHHHL	-①
みみあか	耳垢	LH・LH	LHL・LHL	LHHH	LHHHL	-①
いしばし	石橋	LH・LH	LHL・LHL	LHLL	LHLLL	-③
はつゆき	初雪	LH・LH	LHL・LHL	LHLL	LHLLL	-③
あしおと	足音	LH・LH	LHL・LHL	LHHH	LHHHL	-①
いろがみ	色紙	LH・LH	LHL・LHL	LHHL	LHLLL	-②
うずらまめ	鶉豆	LHL・LH	LHLL・LHL	LHHLL	LHHLLL	-③

### 2. 3 Y=1の場合, Z=-①

後部要素Yが1拍の場合, 作られる複合名詞Zのアクセントは, LHH, LHHHとなり, 後ろから1拍目に下がり目が来る型が基本である。ただし, それよりもアクセント核をひとつ前へ進めた②型と, アクセント核が消滅した①型の例外が大変多い。後部要素Yとなる1拍名詞としては, H(●▷)とL(○▶)がありうるが, 特にL(○▶)が後部要素となる場合の方が①型, -②型が多そうである。例外の例外として, 「黒目・土曜日・親子」がある。【表10】参照。

【表10】 Y=1の場合

読み	漢字	X+Y	Xが+Yが	Z	Zが	Zの下がり目
くろめ	黒目	HL・H	HLL・HL	HLL	HLLL	-③
かげえ	影絵	HL・H	HLL・HL	LHL	LHLL	-②
そばこ	蕎麦粉	HL・H	HLL・HL	LHH	LHHL	-①
にはいず	二杯酢	HLL・H	HLLL・HL	LHHH	LHHHL	-①
すその	裾野	LH・H	LHH・HL	LHH	LHHH	①
きつねび	狐火	LHH・H	LHHH・HL	LHHL	LHHLL	-②
りんごす	林檎酢	LHH・H	LHHH・HL	LHHH	LHHHL	-①
うどんこ	饅頭粉	LHH・H	LHHH・HL	LHHH	LHHHH	①
ふすまえ	襖絵	LHH・H	LHHL・HL	LHHL	LHHLL	-②
ひょうしぎ	拍子木	LHH・H	LHHL・HL	LHHL	LHHLL	-②
かつおな	鰹菜	LHH・H	LHHL・HL	LHHH	LHHHL	-①
かしわで	柏手	LHH・H	LHHL・HL	LHHH	LHHHL	-①
さかいめ	境目	LHH・H	LHHL・HL	LHHH	LHHHL	-①
はやりめ	流行目	LHH・H	LHHL・HL	LHHH	LHHHL	-①
ひとで	人手	LH・H	LHL・HL	LHH	LHHH	①
かきね	垣根	LH・H	LHL・HL	LHH	LHHL	-①

ひとめ	人目	LH・H	LHL・HL	LHH	LHHH	①
すみえ	墨絵	LH・H	LHL・HL	LHH	LHHH	①
どろえ	泥絵	LH・H	LHL・HL	LHH	LHHL	-①
こめず	米酢	LH・H	LHL・HL	LHH	LHHH	①
こころね	心根	LHL・H	LHLL・HL	LHHH	LHHHL	-①
なみだめ	涙目	LHL・H	LHLL・HL	LHHH	LHHHL	-①
はりこ	針子	HL・L	HLL・LH	LHH	LHHL	-①
あかみ	赤身	HL・L	HLL・LH	LHL	LHLL	-②
あさひ	朝日	HL・L	HLL・LH	LHL	LHLL	-②
かたみ	肩身	HL・L	HLL・LH	LHL	LHLL	-②
がらすど	ガラス戸	HLL・L	HLLL・LH	LHHL	LHHLL	-②
もみじば	紅葉葉	HLL・L	HLLL・LH	LHHL	LHHLL	-②
きねんび	記念日	HLL・L	HLLL・LH	LHLL	LHLLL	-③
やぶか	藪蚊	LH・L	LHH・LH	LHH	LHHL	-①
はなぢ	鼻血	LH・L	LHH・LH	LHH	LHHH	①
いたど	板戸	LH・L	LHH・LH	LHH	LHHH	①
えだは	枝葉	LH・L	LHH・LH	LHH	LHHH	①
さとご	里子	LH・L	LHH・LH	LHH	LHHH	①
こうしど	格子戸	LHH・L	LHHH・LH	LHHL	LHHLL	-②
あぶらみ	脂身	LHH・L	LHHH・LH	LHHL	LHHLL	-②
まなつび	真夏日	LHL・L	LHHL・LH	LHHL	LHHLL	-②
かようび	火曜日	LHH・L	LHHL・LH	LHHL	LHHLL	-②
こはるび	小春日	LHH・L	LHHL・LH	LHHL	LHHLL	-②
どようび	土曜日	LHH・L	LHHL・LH	LHLL	LHLLL	-③
あしたば	明日葉	LHH・L	LHHL・LH	LHHL	LHHLL	-②
いえか	家蚊	LH・L	LHL・LH	LHH	LHHL	-①
しまが	縞蚊	LH・L	LHL・LH	LHH	LHHL	-①
おやこ	親子	LH・L	LHL・LH	HLL	HLLL	-③
あみど	網戸	LH・L	LHL・LH	LHL	LHLL	-②
うらは	末葉	LH・L	LHL・LH	LHL	LHLL	-②
ほねみ	骨身	LH・L	LHL・LH	LHL	LHLL	-②
とくいび	特異日	LHL・L	LHLL・LH	LHHL	LHHLL	-②

## 2. 4 複合名詞のアクセント規則のまとめ

山口県徳地方言の複合名詞Zのアクセントは、後部要素Yの「長さ」(拍数)によって決定する。後部要素Yが3拍の場合には複合名詞Zは-③型となり、後部要素Yが2拍の場合には複合名詞Zは-②型になるのが基本であり、後部要素Yが1拍の場合には複合名詞Zは-①型となるのが基本である。当該方言の複合名詞のアクセントは、後部要素決定型と言える。

例外は、その長さの複合名詞の基本型よりもアクセント核をひとつ前へ進めた型と、アクセント核が消滅した型に分けられる。すなわち、Y=②の場合は、Zの基本型が-②型なので、その例外は-③型となる。Y=①の場合は、Zの基本型が-①型なので、その例外は-②型となる。そして、それぞれに①型の例外も見られる。アクセント核が後退した例外はほとんど見られない。

今後は、もう少し用例を増やして、複合名詞のアクセント規則を考察してみたいと思う。また、例

外の処理を個別に詳細に考察する必要がある。

- (注1) 昭和30年4月1日に、出雲村・八坂村・柚野村・島地村・串村が合併して成立した。
- (注2) 年齢順に、昭和3年(1928)生まれの女性(満77歳)、昭和4年(1929)生まれの男性(満76歳)、昭和6年(1931)生まれの女性(満74歳)、昭和17年(1942)生まれの男性(満63歳)である。
- (注3) 広戸惇(1961)「山口県におけるアクセントの分布—石見との関連において—」『山陰文化研究所紀要』1, pp.40-52において、調査地点のひとつとして徳地町島地が取り上げられており、昭和35年(1960)当時に60歳前後の方が被調査者であると書かれている。  
平山輝男編(1979)『全国方言基礎語彙の研究序説』明治書院「第2章地域別方言の特色 35 山口県方言」pp.194-197において、徳地町島地が調査地点に選ばれている。
- (注4) 旧山口市桜島、山下勝彦さんの3拍名詞アクセントを例に示す。  
大正15年(1926)9月生まれ(平成15年5月の調査時に満77歳)

	○●●▶	○●●▷	○●○▷	●○○▷
第2類	間	小豆, 毛抜き, 釣瓶, 蜥蜴, 二つ		夕
第4類		頭, 軍, 恨み, 扇, 男, 思い, 表, 女, 鏡, 敵, 刀, 言葉, 暦, 境	鶉, 面	
第3類		岬	黄金, 小麦, 栄螺, 力, 二十歳	
第5類			朝日, 五つ, 命, 鱒, 胡瓜, 心, 姿, 涙, 錦, 火箸, 眼	
第7類	苺, 鯨, 葉, 盥, 便り	病		後ろ, 蚕, 兜
第6類	孰, 兎, 鰻, 狐, 雀, 背中, 鼠, 誠, 操, 蓬, 雲雀			鳥, 高さ
第1類	筏, 鯛, 己, 飾り, 形, 着物, 轡, 煙, 氷, 小山, 衣, 魚, 舅, 印	庇, 霞	仔牛	

- (注5) NHK放送文化研究所編(1998)『NHK発音アクセント辞典 新版』日本放送出版協会
- (注6) 山下知子(1977)「山口市方言アクセントの一考察—名詞アクセントをめぐる—」『山口女子大研究報告 第1部人文・社会科学』2, pp.77-85  
添田建治郎(1980)「山口市内の方言アクセント—「共通語化」の側面を中心に—(二)」『山口国文』3, pp.38-51等がある。

その他の参考文献

徳地町史編纂委員会編(1975)『徳地町史』徳地町役場

金田一春彦(1974)『国語アクセントの史的研究 原理と方法』塙書房

金田一春彦・和田實(1980)『国語アクセント類別語彙表』国語学会編『国語学大辞典』東京堂出版

上野善道(1997)「複合名詞から見た日本語諸方言のアクセント」, 杉藤美代子監修, 国広哲弥・廣瀬肇・河野守夫編『日本語音声2 アクセント・イントネーション・リズムとポーズ』三省堂, pp.231-270

**謝辞**

このたびの調査にあたり、赤木森さん、有井チエ子さん、中村哲子さん、藤井勝行さん（50音順）が実際に話者としてご協力くださいました。また、徳地町教育委員会の浜田朗さんが話者の選定にご協力くださいました。

深謝申し上げます。

（日本語学）